

大淵の

猿番道

平成九年三月五日号

大淵中学校の北側から大淵二丁目に通じる細い山道があり、地元の人「猿番道さるばんどう」と呼んでいます。今ではすっかり整備されたこの道のわきに、大きな石があります。今回は、この石に座って道の番をしていたという大猿のお話です。

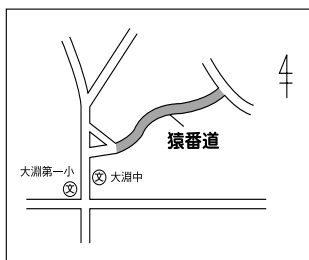
昔、大淵本村ほんむらや中野村から大淵新田へ通じる道は、たった一本しかありませんでした。その細い山道には、木の枝葉が覆いかぶさり、昼間でも薄暗いほどでした。

この林の中に、いたずら好きの大きな猿が一匹すんでいました。この猿は、どこで覚えたのか火打ち石で火をおこすことを知っていました。

ある日、猿は道の中

ほどにあるケヤキの大木に登り、人が通るのを待っていました。しばらくすると、一人の女の人が荷物を背負って、木の下を通ったので、猿は枝を折って火をつけ、女の人の真上から落としました。頭上から火が降ってきたので女の人はびっくり仰天。悲鳴を上げて逃げていきました。

猿は、そのおもしろさに味をしめ、通行人を毎日驚かすようになりました。ところが、その話が広まり、火を落として通行人を驚かしていたのは、猿のしわざだとわかってしま



いました。村人たちは、大勢で猿を追い回し、とうとう生け捕りにしてしまいました。

人々が、「こんないたずら猿は殺してしまおう」と言うのを聞いた猿は、両手で拝みながら「これからは決してしません」と、涙を流して謝りました。そして、村人たちは、その言葉を信じ、猿を放してあげました。

それから間もなく、この猿は、ケヤキの根元の大きな石に座って道の番をするようになりました。そのおかげで、人々は薄暗い道も



安心して通れるようになったことです。それからというものが、人々は、この山道を「猿番道」と呼ぶようになりました。

「猿番道」を題材にアニメビデオを制作した

平井弘雄さん（大淵）

約十年前、公民館のビデオ講座に入門してから、私はビデオ撮影に熱中し、今まで多くの作品を制作してきました。

私が、「猿番道」の話を制作しようと考えたのは、数年前に広報ふじでその話を読んだのがきっかけ。地元のおもしろい民話だと思ったので、アニメ手法のビデオ制作に初挑戦してみました。切り絵を三百八十枚使い、すべて自分で工夫しながら撮影を行いました。約七分間の作品ですが、構想から完成まで二年以上かかりましたよ。

大淵地区には、さまざまな民話（題材）があるので、次は影絵を使った映像に挑戦しようか、と思っています。

※平井さん制作の「猿番道」は、広報広聴課で無料貸し出ししています。